

病防第60号
令和4年1月14日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

令和3年度病害虫発生予察特殊報 第2号

令和4年1月14日
岐 阜 県

- 1 作物名 ナシ、モモ
- 2 病害虫名 ナシ胴枯細菌病 (旧名: ナシさび色胴枯病)
モモ胴枯細菌病 (旧名: モモ急性枯死症)
- 3 病原名 *Dickeya dadantii* (旧学名: *Erwinia chrysanthemi*)
- 4 発生地域 中濃地域

5 発生状況

令和3年9月頃に中濃地域のナシ、モモにおいて、急激に萎凋、落葉、枯死する樹が散見され、罹病樹の幹や枝表皮は褐変し、幹や枝からは樹液の漏出痕が見られた。

罹病樹から検体を採取し、岐阜県農業技術センターにおいて菌を分離し、同定および遺伝子解析を実施した結果、*Dickeya dadantii* であることが判明し、本県未発生であるナシおよびモモの胴枯細菌病であることが確認された。

ナシ胴枯細菌病は、国内では旧名「ナシさび色胴枯病」として、昭和47年に千葉県で初めて確認されて以降、福島県、秋田県、愛知県、高知県、鹿児島県で特殊報が発表されている。

モモ胴枯細菌病は、これまで「モモ急性枯死症」として知られていたものの、病名の付かない症状名のままであったため特殊報の発表はこれまで無かったが、新しい病名として定められたため、今回特殊報を発表することとなった。

なお、どちらも糸状菌による「胴枯病」とは異なる病害である。

6 病徴

罹病部の初期症状では、樹液様の液体が表皮から形成層に溜まり、樹皮が淡黒～灰黒色をした水浸状となる。やがて、表皮から樹液様物が流れ出て乾固し、さび色に変色する。罹病部の樹皮下は腐敗褐変し、甘いアルコール発酵臭がある。罹病部の上枝

では落葉を伴うことが多く、枝幹の一部または全体が枯死に至る。

7 伝染経路

植物病原細菌 *Dickeya dadantii* によって引き起こされる。本細菌が風雨による泥水の跳ね上がりなどによって、樹皮の傷口に付着して感染するとされている。また、本細菌が多く生息する地下 30 cm 前後に細根が達する若年性の樹で発生が多く見られることから、根からの感染も示唆されているが、明確な感染経路は明らかとなっていない。

8 防除対策

- (1) 胴枯細菌病に登録のある農薬はない。そのため、以下の耕種的防除を実施する。
- (2) 罹病樹は伝染源となるため、伐採後に焼却して処分する。伐採に用いた器具は塩素系消毒剤などで適切に消毒する。
- (3) 樹液による感染拡大を防ぐため、剪定などに用いる器具は樹ごとに交換する、または消毒して用いる。
- (4) 台風の強風などで生じた枝幹部の傷口は、塗布剤を塗布して保護する。
- (5) キクイムシ類の食害による傷口も、本菌の感染経路となる可能性があるため、適切な防除を実施する。
- (6) 排水性の悪い園地では発病しやすいとされているため、明渠を設置するなどの排水対策を実施する。
- (7) 本菌はナシやモモの他、リンゴにも感染し（リンゴ胴枯細菌病）、特にモモでは急速に枯死する症状を呈するため注意する。



図1 樹液様物が漏出した樹幹（ナシ）



図2 罹病し落葉した樹（モモ）